

# 海外展開戦略(リサイクル)

概要

平成30年6月

# 海外展開戦略(リサイクル)概要

## 1 政策目的

(1) 我が国企業のリサイクル分野での海外市場の獲得

- 人口減少による廃棄物発生量の減少傾向を受けて、**国内市場の成長には限界が存在**。一方で、我が国企業の海外生産の拡大と世界での廃棄物量の増加を踏まえると、**海外需要の獲得が重要**。

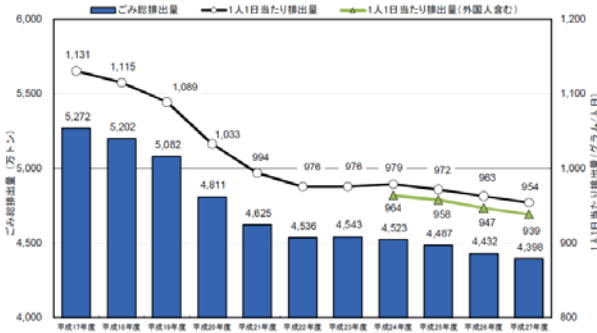
(2) 国際資源循環による我が国の金属資源の確保

- 今後、世界的な資源需要の増加や鉱山開発コストの上昇が見込まれる中、海外からの資源依存度が高い我が国にとって、産業競争力強化の観点からも、**都市鉱山からの金属資源の確保が必要不可欠**。

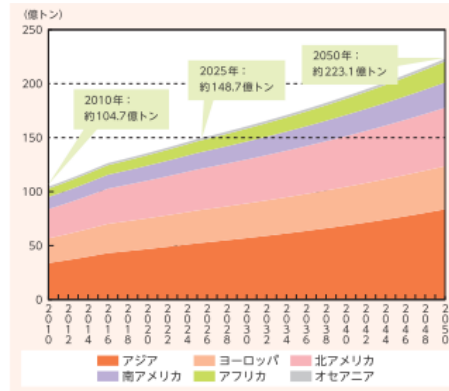
(3) アジアにおけるリサイクルプロセスの適正化

- また、新興国では、リサイクル制度の整備状況が不十分であることや野焼き等の不適切処理による環境汚染、健康被害、資源損失が発生していることから、**環境保全の観点からも対応が必要不可欠**。

ごみ排出量の推移



世界の廃棄物量の推移 (将来)



廃棄物置場に座る子供



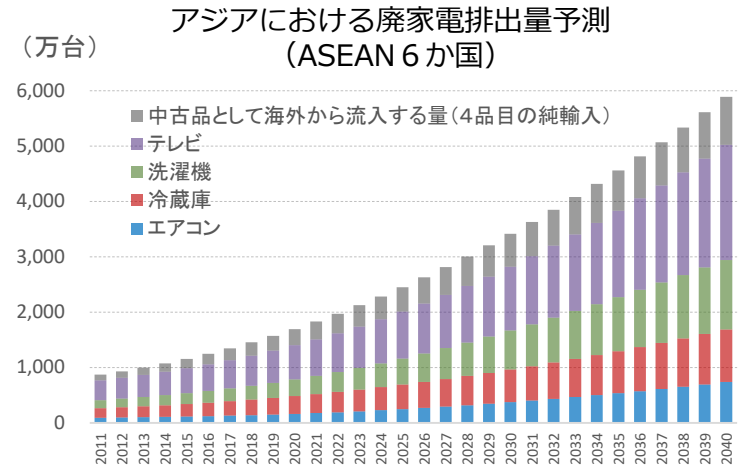
## 2 我が国企業の強み

- 我が国企業は、**使用済電気電子機器からの金属回収を行う際に、例えばケーブルであればプラスチックの除去、電子基板であれば製品からの分離・選別を行うなど、各社処理プロセスを工夫して組み合わせ、法令などに基づいて適切な設備を用いて有害物質を適正処理する技術・ノウハウを強みとして有している**。また、特許出願状況によれば、**メタルリサイクル技術**が強みとなる可能性が高い。

# 海外展開戦略(リサイクル)概要

## 3 海外展開対象地域

- ▶ 新興国では、経済発展や都市の発展の一方で、廃家電等の法整備に取り組み始めているが、**野焼き等による環境汚染などが社会問題化するなど廃棄物が適正に処理されていない。**
- ▶ 我が国と地理的優位性や経済的結びつきが強く、また**環境破壊・健康被害の問題に直面**しており、経済発展に伴う廃棄物発生量の増大が見込まれることから、当面、**アジア**が主要なターゲットとなる。
- ▶ 今後も**廃棄物発生量の増大**が見込まれ、**環境配慮型のリサイクルビジネス**が望まれるアジア諸国で、**我が国企業がリサイクル分野の市場を押さえていく必要がある。**



## 4 事業者ヒアリングを踏まえた課題と政策の方向性

事業者ヒアリングを踏まえた課題	(1) 制度面での障壁		(2) 廃棄物の収集の困難さ	(3) 適正処理の認識不足	(4) リソースの問題	
		①許認可の取得が困難	②法制度が未整備	新規参入の困難さ	適正処理の必要性への理解不足	①人材不足
政策・方向性	<b>現地のパートナー作りと連携スキームの構築支援</b> (課題(1)、(2)対応) ・日本の自治体との連携による現地の自治体とのパイプ構築 ・静脈企業と現地企業がお見合いするセミナーやマッチング等の場 ・現地の動静脈企業や工場団地等とのネットワーク作り			<b>民間事業者の支援</b> (課題(3)、(4)対応) ・FS調査、実証事業 ・現地の状況に適したリサイクル技術の開発を誘導		
	<b>政府間での協力</b> (課題(1)、(2)、(3)対応) ・法整備が進んでいない新興国において、政策対話などの枠組みを通じた相手国でのリサイクル制度の構築			<b>人材育成</b> (課題(3)、(4)対応) ・専門家派遣、訪日研修、招聘等を通じた新興国(政府、企業、国民)のキャパビル及び意識改革		